

北上行その後

池田桂一

沿線の家並の中にきわ立ちて屋根に「えがお」の保育園あり
トンネルを幾つ越えしか定かには覚えぬうちに北上に着く
霧が晴れやがてまた霧が立ちこめるホテルの窓にしがみつく我

北上のホテルの窓ゆ川岸に建てる眺めに明日また文学館を尋ねんと思う

すりへりし母の軽石使いつつかかと擦りぬ^{こす}今年の冬は

みぞれ降る一夜を過ぎて朝明けの頃に雨漏り廊下に及ぶ

廃屋と思ひし扉は開かれて明日よりヤキトリを商うという

震度5のテレビに映るテロップにも慣れて見過ごす幾度となく

わが誕生記念に父の植えしという胡桃幹廻り二米六〇糶

葉の落ちて柿の実の色あざやかに紅葉に負けず輝きており